

新人ナース Diary 第7回

院内留学編 Part-3

院内留学とは

自部署の一般的な疾患の治療や看護について、関係部署での関わりを学び、病棟での看護に活かすことを目的に新人が他部署に半日程度の研修に行きます。

4階病棟



松島 楓



4階病棟には、消化器疾患の患者さんが多く入院しています。そこで、今回消化器内視鏡センターを見学しました。

① その部署を留学先に選んだ理由は？

4階病棟では、ERCPや胃カメラ、大腸内視鏡検査を受ける患者を受け持つ機会が増えてきました。それに合わせて学習してきましたが、実際にどのように検査や処置がおこなわれているのか想像できていませんでした。院内留学を通して実際に見学することで、どのように検査がおこなわれているのを知り、今後の検査や処置について説明する際に活かしていきたいと思ったからです。

院内留学先：消化器内視鏡センター

③ この経験をどのように活かしますか？

内視鏡センターで院内留学を行ってみて、患者さんは検査中どのようなことがおこなわれているのかわからず、多くの不安と緊張を抱えているということを知ることができました。そのため、今後は検査を受ける患者さんを受け持った際には、少しでも不安を軽減できるような説明を行い、検査に対する思いを傾聴していきたいです。

② 実際に院内留学をしてみてどうでしたか？

今回の院内留学では、EUS～ETCPの検査の流れや内容、ENBDチューブ挿入の見学をして、検査を受ける患者さんへの関わりについて学ぶことができました。

患者さんが安心・安全に検査を受けることができるように声掛けやタッチングを行うことは看護師の役割であると学びました。

研修先担当者よりアドバイス

消化器内視鏡センター：上田 恵生看護師

今回、EUS（超音波内視鏡検査）、ERCP（内視鏡的逆行性胆道膵管造影）を見学してもらい、検査内容やその実際について知ることができたと思います。

検査中は、咽頭麻酔や鎮静剤などさまざまな薬を使用します。患者さんが安全に検査を受けられるように体位を整たり、呼吸や循環動態などに起こりうるリスクを予測しながら観察し、対応していくことが大切です。今後は、検査の処置内容を関連付けながら、少しでも患者さんの不安を軽減し安全に検査を受けていただけるように患者さんに関わっていきましょう。